

日吉台地下壕保存の会会報

第80号

日吉台地下壕保存の会

2006年度港北区ふるさとサポート事業 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

ピース・ロードふるさと港北PART2

～戦争遺跡を歩いて平和の語り部になろう～

日吉台地下壕保存の会は、昨年度に引き続き港北区のふるさとサポート事業に応募、助成金を受け、今年度は下記の三つの事業に取り組んでいます。

- ① ガイド養成講座の開催、昨年度参加者のガイド養成
- ② ガイドブック「戦争遺跡を歩く 日吉」を増刷し、1000部を地下壕見学の児童・生徒、配布希望の学校等に無料配布する。
- ③ 「第14回横浜・川崎平和のための戦争展」に「市民が描いた戦争の記憶」として戦争体験者等の絵画を募集・展示する。

昨年度は、毎回50人近い方々が参加され、既にガイド活動を始められた方々もいて盛況裡に行われました。会員の皆さまの更なる積極的なご参加をお待ちしております。

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

- 第1回 10月21日(土)「日吉の戦争遺跡を歩く」(その1) 連合艦隊司令部地下壕
慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎前集合 10:00～14:30
藤山記念館会議室 昼食 懷中電灯持参
- 第2回 11月18日(土)「戦争遺跡のあるまち 日吉」
慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎会議室 13:30～16:00
講師:日吉台地下壕保存の会運営委員
- 第3回 12月9日(土)「近代戦争の拠点 神奈川」
慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎会議室 13:30～16:00
講師:日吉台地下壕保存の会運営委員
- 第4回 07年1月20日(土)「日吉の戦争遺跡を歩く」(その2)
艦政本部地下壕ほか 来往舎前集合 10:00～14:30
来往舎会議室 まとめ 昼食持参

対象 市民・学生(高校生以上) 参加費 2000円(全4回分)

〆切 10月10日(土) 定員 30名

申し込み方法

はがきまたはFAXで住所、氏名、連絡先(TEL&FAX、郵便番号、住所)
ご記入の上 喜田(港北区下田町2-1-33:TEL045-562-0443)までご連絡下さい。

第10回戦争遺跡保存全国シンポジウム 群馬県みなかみ大会盛會裡に開催・終了

敗戦から61年、第10回戦争遺跡保存全国シンポジウム群馬県みなかみ大会は8月19日(土)～21日(月)まで3日間に渡り、上越国境谷川岳を仰ぐ群馬県みなかみ温泉「松の井ホテル」で開催されました。日吉台地下壕保存の会からは8名、神奈川県内からは12名が参加し、シンポジウム、分科会に参加、また懇親会などで全国の保存団体と交歓しました。

今回のシンポジウムは第10回、節目の大会で、海外の中国、韓国、マレーシアから研究者を招き開催されました。国際的友好、連帯、さらにアジア太平洋全体に亘る視野の広がりの中で「あの戦争はなんだったのか」という重いテーマについて、日本国内での国家主義的、民族主義的歴史観の高まりに抗して世界史的視野からの話し合いが行われました。戦争遺跡はアジア太平洋全体に広がり、殆どのものが未だ放置の状態にあります。再び戦争遺跡をつくらないために、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」のフィールドは広く、また課された課題は大きく重いということが再認識されたシンポジウムでした。

また翌日の分科会では主に国内の戦争遺跡について深まりのある議論がなされ、全体集会で大会アピールと決議が採択されました。また総会では会報の件や予算、人事などが採択され、来年の大会は東海方面、または東京という方向で検討されていくことが決まりました。

最終日のフィールドワークでは「中島飛行機月夜野地下工場跡」や高崎の「群馬の森・岩鼻火薬製造所跡」の見学が行われました。今大会には述べ300名が参加し、節目の大会にふさわしく盛會のうちに幕を閉じました。

【大会】

《第一日目; 8月19日》

午後からの大会は壮大な谷川岳の麓、みなかみ温泉のホテル「松の井」アストロホールに於いて、報道陣も含め250名以上の参加者の前で行われました。

『シンポジウム』主催者を代表して村上有慶氏、地元を代表して小林一義氏(月夜野戦跡文化財を守る会会長)、来賓としてみなかみ町助役の挨拶の後、大日方悦夫、菊池実(全国ネット運営委員)両氏の司会で、シンポジウムが始まりました。



約200名の参加者を前に開会挨拶をする村上代表

①「太平洋戦争末期に済州道に構築された日本軍陣地に関する研究」

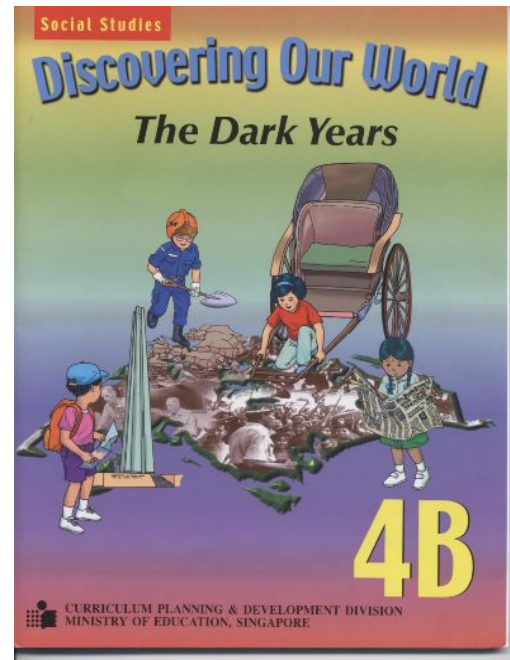
金元福(韓国済州道在住)

朝鮮半島南端の島、済州島全域を日本軍は1945年4月から要塞化を試み、敗戦時には7万5千人規模の兵力が駐屯していた。島には無数の戦跡が残るが、報告では松岳山及びソダルオルム、アルトウル日本海軍飛行場、済州市一帯の地下洞窟群など、海軍と陸軍に分けて戦跡の分布とその建設過程などの詳細について報告された。「戦争遺跡の調査と記録の累積が戦争及び平和を理解する土台となる。この土台の上に証言や文献資料、遺物分析などの成果を装具する事を通じて我々は戦争の実像に接近することができる。」と述べている。

②「マレーシアにある戦争遺跡」

楊佐智 (マレーシア在住)

楊氏はマレーシア、シンガポールで戦争遺跡の研究とガイドの活動をされている。マレー半島からシンガポールに至る各地で日本軍は1942年3月「老若男女を問わず徹底的に掃討」せよという「敵性華僑狩り」を実施した。マレー半島各地に150箇所以上も残る殉難華僑追悼碑の詳細なリストをもとに、この報告はなされた。少なく見積もって6千人以上、2万人からの婦女子を含めるシンガポール華人虐殺が日本軍の手によって行われた。実態の究明や慰霊祭が行われているが、日本ではこの事件を知る人は少ない。「許すことはできても、忘れるわけには行かない」と子どもたちには教育が行われ、その英文教科書の紹介もなされた。



③「旧日本関東軍の軍事要塞遺跡に関する

ドキュメンタリー番組制作にあたって」

侯新天 (中国中央テレビ局)

中国中央テレビの侯氏はドキュメンタリープロデューサーとして中国・モンゴル国境付近にある黒龍江省黒河、虎頭要塞をはじめとする、今も生々しく残る破壊された関東軍軍事要塞を映像でとらえ、全滅の要塞の報告をされた。氏は「現代の要塞研究の意義は遺跡を通して歴史を理解するに留まらず、私達が平和を熱愛するからこそ、この戦争の歴史を忘れてはならず、いかなる防御体制も不正な侵略戦争の失敗を防ぐことは出来ない。いかなる戦争であろうと人類に対して限りない苦痛と災難しかもたらさないことを私達はこれらの要塞を通して知ることが出来る」と述べている。

④「ビルマ・カラゴン村事件－村民虐殺・女性拉致・村焼き払う－」

岩根承成 (前橋国際大学)

アジア太平洋戦争末期の1945年7月上旬群馬県高崎の陸軍第33歩兵師団第215連隊によって起こされたビルマ南東部のインド人居住カラゴン村村民虐殺事件である。インパール作戦イラワジ会戦で破れた同師団は英軍搜索の名目のもと、婦女子を含める600人以上の村民を虐殺、村を焼き払いビルマ最大の虐殺事件をひきおこした。この事件の関係者はビルマで英軍によって裁判にかけられ、BC級戦犯として処断された。岩根氏は裁判の経過を詳細を報告されたが、師団長、連隊長は起訴されることもなく免罪され、大隊長以下現場指揮官だけが絞首刑その他の戦犯の罪を負わされる結果となった。

「現地調査から見たカラゴン村事件」

(碓井哲郎) (タイ在住、フリーライター)

碓井氏はタイに在住して、群馬出身の口を閉ざす部隊関係者からも聴き取りを行い、この事件を詳細に調査され報告された。また今も政治的に不安定で、医療機関もなく年収1万円以下で暮らす極度に貧しい状況にあるカラゴン村の生き残りの村民から聞き取り調査が行われている。「村民達は今も多く亡骸とともに忘れ去ることのできない記憶を背負いながら生活している。」と述べられている。

⑤「ニューギニア戦線の痕跡：未解決の課題—個人的経験と調査から」

坂口春海（元国連職員）

氏は国連職員としてパプア・ニューギニアに4年間駐在され、ポートモレスビー一帯の戦争遺跡を調査された。1942年2月から始まったニューギニア戦線では日本、連合軍合わせて400万からの兵力が展開し、日本兵10万人以上がなくなった。激戦地モレスビー湾一帯には今も海には沈没した軍艦、輸送船、陸には高射砲、戦車、野砲、戦闘機、機関銃の残骸が無数にある。その詳細と兵士からの聞き取り調査を報告され、これらの「戦争遺跡の保存の環境は非常に厳しい。パプア政府には必要な経済力、人的資源を長期に投入する余裕は皆無であり、一般の日本人には想像できない条件の下で現地の人は日々の生活を強いられている。戦争遺跡は保存どころか海外に違法流出されることもある。（今回のシンポジウムに関係した）中国、韓国、マレーシア、日本はパプアニューギニアの重要な開発パートナーである。現地の大使館を通じた共同現地調査などの共同企画の可能性を求めたい。」と述べられている。

⑥「日本の戦争遺跡の現状と展望」

十菱駿武（山梨学院大学・戦争遺跡保存全国ネットワーク代表）

1998年度から始められた文化庁による近代遺跡の全国調査「政治・軍事に関する所在調査」では43都道府県から544件の戦争遺跡が報告され、そのうち50件が詳細調査対象に選ばれた。02年～05年に松代大本営、舞鶴海軍施設群、日吉台地下壕、浅川地下工場などが調査官によって現地調査され06年度中に「近代遺跡調査報告書（9）政治軍事」が発表される見込みである。また04年の文化財保護法改正で登録文化財の対象に記念物が加わり、近代の建造物だけではなく上部構造のない遺構や地下壕なども登録記念物（史跡）としてゆるい届け出制の網で保存できることになった。

1990年沖縄・南風原陸軍病院壕の先駆的文化財指定、1995年の文化財指定規準の拡大以降16年間の行政、学会、市民運動の高まりの成果で、指定、登録された戦争文化財は急速に増え、06年度7月現在110件（前年比9件増）になっている。今年2月には高知県南国市教委は、高知海軍航空隊「前浜掩体壕」7基を一括して市史跡に指定、説明板、マップ、ガイドブックを作成し、標識の設置、見学路の公有地化、周遊コースの設定など平和教材としての活用が予定されている。館山市赤山地下壕はNPO法人南房総文化財・戦跡フォーラムがガイド活動を行い、年間数万人が入壕している。報告ではその他各地での先進的な実践について述べられた。

《第二日目：8月20日（日）》

第一分科会「戦争遺跡保存運動の現状と課題」	報告数	8
第二分科会「調査方法と保存整備の研究」	報告数	8
第三分科会「平和博物館と次世代への継承」	報告数	10

日吉台地下壕保存の会は、第1分科会、第3分科会で報告を行いました。

◎第1分科会報告

日吉台地下壕保存の会 2005年度の活動

—地域・公立小中学校・行政とのかかわりを中心に—

日吉台地下壕保存の会運営委員 亀岡敦子

(I) 保存の会の活動

A 見学案内

2005年度 38回 1748名参加

B 調査研究

連合艦隊司令部地下壕内の堆積物調査(運営委員 桜井準也)

図面からみる海軍省人事局地下壕(副会長 新井揆博)

C 第13回川崎・横浜平和のための戦争展開催 川崎市平和館

テーマ「昭和20年 戦争の記憶をひきつぐ」

大日方純夫氏の講演 中国・韓国・日本の若者によるシンポジウム

「市民が描いた戦争の記憶」絵画展

神奈川県全域の戦争遺跡展

D 出版

『戦争遺跡を歩く 日吉』

日吉台地下壕保存の会編

『フィールドワーク 日吉・帝国

海軍大地下壕』平和文化

E その他

講演会や学習会の開催

第9回戦争遺跡保存全国シンポ

ジウム長崎大会参加 平和のため

の戦争展 in 横浜に参加 新聞・

ラジオの取材協力



第一分科会会場風景(54名参加)

(2) 慶應義塾との関わり

2,3年前から慶應義塾関係の見学者(教職員・卒業生・学生)が増える。

高校・大学授業の一環としての見学が行われる。

地下壕見学案内団体として、信頼関係にある。

(3) 地域(行政・公立学校)との関わり

A 平成17年度の港北区「ふるさとサポート事業」の助成対象団体に選ばれる。地域還元の事業をおこなう。(補助金35万円)

冊子『戦争遺跡をあるく 日吉』三千部出版

ガイド養成講座開講(5回)広報を通じて募集 約60人の参加者

B 港北区内の公立小中学校37校に、校長会を通じて、冊子(各15部)学習用に寄贈し、関心を寄せる学校が増える。総合学習の一環としての見学については、見学生徒全員に無料配布

C 平成18年度も港北区「ふるさとサポート事業」助成対象団体に選ばれる。(補助金12万円)冊子三千部増刷の費用の一部とする

D 港北区だけではなく、横浜・川崎両市の公私立学校(小中高)の見学希望急増する。歴史の学習の場として認知される。

E 横浜市教育局文化財課や港北区生涯学習課などと、良好な関係を築き、情報交換を行う。

(4) 社会的な評価

平成17年度神奈川地域社会事業賞受賞(神奈川新聞社)(副賞30万円)

会の16年間の活動に対して、地域に根ざした継続的な活動として、高い評価をうける。

(5) 今後の課題

日吉台地下壕の調査研究に関しては、緒に就いたばかりである。歴史学・建築学・考古学など多方面から研究をし、その正確な知識を基盤にして、「語り部」としての案内をめざす。とくに小中高大学生の見学者が増えたいま、案内の質量ともに、向上が求められている。

◎第3分科会報告

日吉台地下壕保存の会運営委員 岩崎昭司 喜田美登里

第3分科会のテーマは「平和博物館と次世代への継承」です。8月20日の9時から2時20分までに10本の発表がありました。次世代への継承というテーマに沿って、各地で取り組まれている様々な活動が報告され、全国大会10年の歩みを感じる、大変密度の高い充実した内容の分科会でした。第3分科会は参加者も多く、私たちが準備していった100部近い資料も足りなくなっていました。

日吉台地下壕保存の会は「戦争遺跡の活用と次世代への継承のために 助成金事業応募と日吉台地下壕保存の会の活動」として、2005年度の港北区ふるさとサポート事業に応募して、「戦争遺跡のガイド養成講座」を企画し、見学用冊子「戦争遺跡を歩く 日吉」B5版32頁を作成した事などの成果を報告しました。保存の会の活動にとって、懸案だった「地下壕ガイドの養成と案内資料の充実」は助成金を受けることで一歩前進して、2005年度のガイド養成講座の実施と冊子の作成を実現できました。冊子は6月までに6000部作成し、見学会に活用しています。3000部は港北区内の全小中学校、見学の高校生まで、図書館などに無料配布分。既に2500部を配布しました。平和学習として定着してきた児童・生徒の地下壕見学、地域学習に役立てていただいていると思います。区の助成事業なので公共施設にチラシをおけるなど、活動を広く知らせることもできましたし、「ふるサポ事業」に参加した地域の多様なグループとの交流も成果の一つでした。今後の課題は講座・学習会・フィールドワークなどを通じて、地下壕ガイドの質を高め、案内人になりたい人が増えてくれるようにしていくことでしょうか。

今年も全国各地で活動している方たちと交流ができて、元気やアイディアも頂いて帰ってきました。フィールドワークの月夜野や群馬の森、ちょっとだけ寄った谷川岳一ノ倉沢の風景を思い出に。京都の会の方たちから12月に地下壕見学の予約もいただけてきました。

《第三日目；8月21日》

【フィールド・ワーク】

夏の暑い日差しのもと、月夜野戦跡文化財を守る会、戦跡考古学研究会の方々の案内で早朝8時半から総勢80名近い方々が3台のバスに分乗してフィールド・ワークが行われました。

☆月夜野後閑の中島飛行機地下工場跡（みなかみ市月夜野）上越線後閑駅の三峯山麓

群馬県は軍需会社中島飛行機の創業者、中島知久平の出身地である。この地下工場は深さ180mの横坑16本、海軍機の生産を目的に45年2月から工事が開始されたが、稼働前に敗戦となった。工事には強制連行された中国人650人余りや朝鮮人1500人が従事させられ、強制連行裁判で現在係争中である。現在はきのこの貯蔵・栽培に使われている地下壕内部はツルハシや発破のあとが生々しく残っている。ヒンヤリした内部は約60年前工事にあたった人々の話し声が今も聞こえてきそうな迫力であった。



中国人563名を含む労働者によって造られた月夜野後閑地下工場跡を見学する。



壕内には墨書の落書きが数ヶ所あるが今後の調査研究に期待したい。

☆曹洞宗如意寺の中国人慰霊碑(みなかみ町上津)

戦争末期、利根川岩本水力発電所導水路工事、後閑の中島飛行機地下工場建設工事での死者59柱を本寺先々代住職が供養し、遺骨は戦後中国に還ったが慰霊安置所が残っている。また松村謙三の書になる「中国人殉難者慰霊の碑」が1970年建碑され、参加者一同で線香を手向け供養を行った。なお同寺は戦時中板橋区の国民学校児童の学童疎開の地で、下駄箱、黒板などが当時のまま残されている。



中国人殉難者を供養した如意寺



59柱の「中国人殉難者の碑」に焼香する見学者



本堂須弥壇裏に「遺骨安置所」の木札を掲げ「何年後トイエ共此札取り去ル可カラズ」と注記している

☆ 陸軍岩鼻火薬製造所跡 (高崎市岩鼻町)

1882(明治15)年の創業以来、すなわち日清戦争以前から日本陸軍の火薬製造所として、日本の軍事力を大きく担ってきた軍事拠点である。我が国最初の「ダイナマイト発祥の地」でもあり、その碑が建っている。広大な敷地に4千人近い従業員が働いていた。今は跡地が日本化薬(株)、日本原子力研究所、そして県立公園「群馬の森」に分けられたが、公園



陸軍岩鼻火薬製造所跡に残る工室。昭和10年代に作られたものという。



土塁に囲まれて建つ火薬庫

内に朽ち果てた建造物や爆発事故を最小限にくい止めるための土塁などが残っている。しかしそれは“残っている”のであって保存されているのではない。行政の責任できちんとした保存の手だてや説明板設置が望まれる。県立の公園内には歴史的な説明板は見あたらなかった。

公園内には県立歴史博物館があるが、生憎休館日で見学できなかった。近現代史についてはどのような展示がなされているのだろうか。

節目の年にふさわしく国際的で、学術的にもレベルが高く、充実した大会はこうして幕を閉じました。アジア太平洋全体に広がる戦争遺跡について、それぞれの思いを持って「来年もまた会いましょう」と、参加者達は群馬の方々に感謝しつつ、散会しました。



火薬工室・火薬庫は5 m位の土塁に囲まれトンネルを通して出入していた



長いコンクリート製射場の一部

報 告

※ 昨年度のガイド養成講座から活動いただいている渡辺さんの報告です。渡辺さんは日吉の戦争遺跡のガイド活動をされるとともに新しく本会運営委員としても活動され、戦争遺跡保存全国シンポジウムみなかみ大会にも参加されました。

「日吉の戦争遺跡ガイド活動と全国シンポジウム」

日吉台地下壕保存の会運営委員

渡辺清

1942年生まれです。私は横浜、日吉で生まれ育ちました。かすかに覚えているのは戦争末期頃のことです。サイレンが鳴り、空襲だという声で電気を消し、お寺（金蔵寺）の裏山にある防空壕に待避する日が続いた幼年時代。それから60年の年が過ぎたとき「港北区役所ふるさとサポート事業の一つとして「ピースロードふるさと港北・日吉の戦争遺跡ガイド養成講座」（10月～2月）を見、日吉の近代遺跡があるので驚きました。地元だし勉強したいという気持ちがあり、申し込みました。定員30名の所、60名も集まりました。大半が年輩者でした。5回の講座で見学も座学もして、運営委員の講師から学びました。内容は「連合艦隊司令部地下壕を始めとする海軍施設」、「日吉の空襲と学童疎開」「大松院と小嶋萬助（竹橋事件）」でした。特に慶応大学日吉キャンパス内にある旧海軍連合艦隊司令部地下壕に驚きました。

私としても何人の人が平和の語り部としてやるのかと思っていましたが、残ったのは私と慶応大学の学生の二人だけでした。しかも若者と年輩者、取り組んだきかけも違います。見学者も老若男女、考え方も違います。語り部として運営委員会の方に指導してもらい、自分なりに勉強を重ねるとともに、地元の先輩方にも聞き取り調査をしたり、戦争体験者の話を聞いて理解を深めたいと思います。現在は遺跡の一部を説明させてもらっていますが、なかなか勉強したことが見学者に伝わらない現状です。

8月19日から21日に行われた第10回全国戦争遺跡保存シンポジウム群馬大会に参加させていただき、全国に様々な遺跡があること、海外での旧日本軍による惨禍など、勉強になりました。8月15日には保存の会が大人向けガイドブックを刊行、活用していきたいと思います。

お知らせ

第14回 横浜・川崎 平和のための戦争展

日時 11月20日～25日 10時～17時

会場 慶應義塾日吉キャンパス来往舎

テーマ 「日本人の戦争観を問いなおす」

内容

◎展示部門（開催期間中10時～16時30分）

1 戦中戦後の教科書（特別展示）

「墨塗り教科書」、「満州国」で使われた教科書その他、貴重な教科書を展示

2 写真展示

陸軍登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊・連合艦隊司令部地下壕・神奈川の戦争遺跡など

3 絵画展示

市民が描いた“戦争の記憶”（戦場・空襲・学童疎開など）

◎イベント（シンポジウム・語り・講演など）

1 シンポジウム 11月25日（土）10時～12時（中会議室）

「戦争観と追悼」をテーマに、韓国・中国・ベトナム・アメリカ・日本など留学生による意見交流

2 ひとり語り 11月25日（土）13時～14時（中会議室）

「下級兵士がみた沈没 戦艦武蔵の最期」

富田祐一（青年劇場俳優）

3 講演 11月25日（土）14時30分～16時

「靖国神社と憲法」（仮題）

田中伸尚（ノンフィクション作家）

4 プレイイベント 11月12日（日）13時30分～

靖国神社遊就館見学（予定）

5 絵画講習会（戦争体験を描く）

10月29日（日）13時～16時

日吉地区センター 会議室

講師 山川 靖夫

お話 須田 輪太郎

◎絵画の募集

あなたの戦争の記憶を「絵」にしてみませんか！

11月20～25日 慶応大学日吉キャンパスの来往舎ギャラリーにて開催する「第14回横浜・川崎平和のための戦争展」で絵画展示「市民が描いた“戦争の記憶”」を企画しています。戦中・戦後に関わらず、最も印象に残っている場面や出来事などを1枚の絵にして頂ければと思います。

絵画の体裁は「A3の用紙」を使用、200字程のコメントを添付。どのような描き方でも結構です。

郵送先 〒211-0031 川崎市中原区木月大町6番地1号

法政大学第二高等学校育友会教育研究所 大庭乾一宛（11月10日必着）

絵画展示に関連して、絵画教室を開催いたします。お気軽にご参加ください。

絵画教室 10月29日（日）13時～16時 日吉地区センター中会議室

講師 山川靖夫さん お話 須田輪太郎さん

（問い合わせ 045-562-0443 喜田）

予定

20日：準備

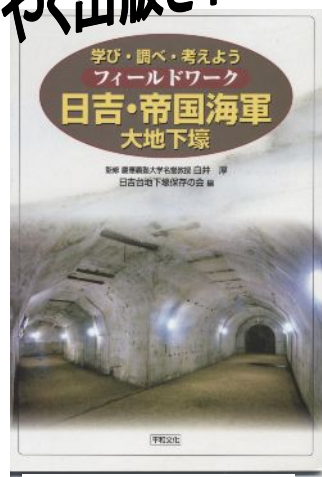
21日・22日：展示

23日：休館

24日：展示

25日：シンポジウム・講演

ようやく出版されました



出版社 平和文化
本体 600円＋税

● 活動の記録

2006年7月～9月

- 7/5 第1回運営委員会 会報79号発送(慶応高校物理教室)
- 7/14 第2回運営委員会 (日吉地区センター)
- 7/20 第14回横浜・川崎平和のための戦争展 実行委員会(法政第二高校教育研究所)
- 7/21 地下壕見学会 カリタス女子中学高等学校 25名
- 7/22 7月定例見学会① 28名
- 7/26 地下壕見学会 港北区小学校社会科研究会 44名
- 7/29 7月定例見学会② 68名
- 8/4 『日吉・帝国海軍大地下壕』(平和文化) 発刊について記者会見(横浜州市庁舎記者クラブ) (8月中旬の神奈川、日経、産経新聞などに紹介記事掲載)
- 8/9 地下壕見学会 慶応大学国際関係会 50名(留学生14名)
- 8/12 8月定例見学会 70名(雷雨のため地上部の見学を中断)
- 8/15 『学び・調べ・考えよう フィールドワーク 日吉・帝国海軍大地下壕』(平和文化) 発刊
- 8/19～21 第10回 戦争遺跡保存全国シンポジウム・群馬大会(水上温泉松の井ホテル) 分科会発表
- 第1分科会 「保存運動の現状と課題 9年の報告」 新井揆博
「2005年度の活動 地域・公立小学校・行政とのかかわりを
中心に」 亀岡敦子
- 第3分科会 「戦争遺跡の活用と次世代への継承のために助成金事業応募
日吉台地下壕保存の会の活動」 岩崎昭司 喜田美登里
- 8/31 地下壕見学会 神奈川大学附属中学校1年生「地域調査」学習 36名
- 9/5 地下壕見学会 慶応大学新世紀三田会 26名
- 9/8 地下壕見学会 港北区生涯学級「港北の魅力を探る会」 75名
- 9/12 地下壕見学会 みどり97会 40名

予定

- 9/15 運営委員会 会報80号発送(慶応高校物理教室)

地下壕定例見学会 9/16・9/30・10/28・11/11・12/2

▲定例見学会は毎月第4土曜日に行っています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。(見学申込先 TEL&FAX045-562-0443 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 港北区白幡向町20-49 045-402-9090
(見学会・その他) 喜田美登里: 港北区下田町2-1-33 045-562-0443
ホームページ・アドレス: <http://www.geocities.HeartLand-Hanamizuki/2402>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
日吉台地下壕保存の会運営委員会